

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連 (四国)	良く なっている	-	-	-	
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・10月に行われたイベントにたくさんの集客があり、それが商店街全体に波及して人の流れが良くなっている。秋が深まり、秋物商品が順調に推移している。	
	変わらない		商店街（事務局長）	来客数の動き	・残暑が長く続き、服飾を中心に季節商材の動きが鈍かったが、ようやく気温が下がり、来客数が伸び始めた。
			一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・単価の安い商品や新事務所・新社屋のお祝い商品の売行きが良かったが、来客数はやや減少している。
			一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・販売量に大きな変化はない。
			一般小売店〔酒〕（販売担当）	お客様の様子	・専門店の販売がかなり厳しい。消費者は大型店でまとめ買いすることが多いようだ。
			百貨店（企画担当）	単価の動き	・毎年恒例の大型催事の単価が上昇せず、売上が厳しい状況にある。
			スーパー（企画担当）	来客数の動き	・周辺に競合店の出店・改装がある店舗は影響が大きく出ている。
			スーパー（財務担当）	来客数の動き	・来客数は前年比2%ほど増加しているが客単価が下落傾向にあり、利益への貢献がほとんどない。
			コンビニ（総務）	来客数の動き	・来店客数の前年割れが続いている。
			衣料品専門店（経営者）	競争相手の様子	・10月前半は残暑の影響で秋物が厳しかったが、中旬以降に、気温が下がりはじめ、良くなってきた。ただし、今春オープンした大型ショッピングセンターの影響は続いている。
			衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・落ちるところまで落ちており、当分変わらないと思う。
			家電量販店（店員）	単価の動き	・販売量は増えているものの、客単価が大幅に下落しており、売上高に変化は無い。
			家電量販店（営業担当）	お客様の様子	・来客数が減少したまま、戻らない。顧客との会話から、政局の不透明感が買い控えの原因となっているようだ。
			都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・宿泊者数は増加している。中国や韓国への旅行を控えて、国内旅行にシフトしていると考えられる。一方、レストランの来客数が減っており、全体としては、あまり変わらない。
			タクシー運転手	来客数の動き	・秋になって、お遍路の仕事が増えている。お遍路さんが乗車してくれると、ある程度の売上は確保できる。
			タクシー運転手	お客様の様子	・夏以降、売上も乗客数もあまり変化していない。乗客との話では、給料が上がらない、以前より下がっているという声が多い。
			通信会社（社員）	販売量の動き	・世界的に話題の新製品が発売されたが、業界全体の販売量は、昨年と変わらないと思う。
			通信会社（企画）	お客様の様子	・顧客からの引き合いに変化は無く、変わらない。
	観光名所（職員）	来客数の動き	・来客数は平年並みで推移している。		
	美容室（経営者）	競争相手の様子	・競合店が近隣にオープンしたので、新規の顧客が減ると思う。		
	設計事務所（職員）	販売量の動き	・国や県の公共事業が前年並みに発注されており、数が月前と、大きく変わらない。		
	やや悪く なっている		商店街（代表者）	それ以外	・政局の不安定や中国との摩擦、中国景気の減速など不安材料ばかりが目につく。
			百貨店（総務担当）	販売量の動き	・婦人雑貨や衣料が前年比マイナスで推移している。身の回り品も減っている。
			百貨店（営業担当）	販売量の動き	・来客数は前年並みであるが、販売量や客単価が下落している。
			スーパー（店長）	競争相手の様子	・競合店が特売やクーポン券などの販促活動を強化して来店客数を伸ばしており、影響を受けている。
			スーパー（統括担当）	お客様の様子	・来店客数はあまり変わらないが、販売量が前年比で3%ほど落ちている。
スーパー（人事）			販売量の動き	・6月以降、業界全般で、売上の前年割れが顕著となっている。また、競合店との顧客の奪い合いが激しくなっている。	

		コンビニ（店長）	単価の動き	・客単価や購入点数が減っている。顧客は価格に敏感になっており、値引き商品が急に売れるようになった。本の立ち読みやトイレを借りに来ただけといった客が増えている。
		衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・昼間の気温が高い日が続く、単価の高い厚手の商品の動きが悪い。前年比で5%以上落ち込んでいる。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・エコカー補助金が9月に終了し、受注が減少してきている。10月は、受注高、販売数とも前年を割り込んでいるが、思ったほどは落ちていない。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・今年は昨年より悪い。消費が落ちていることが原因と考える。
		旅行代理店（支店長）	来客数の動き	・来店客数が前年より減少しており、秋の行楽シーズンになっても個人旅行の申込状況は前年を下回っている。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・客単価が下落し、来場者数も昨年より減っている。週末は予約で埋まっているが、平日はなかなか埋まらない。
		競艇場（職員）	販売量の動き	・10月は、前月比6.8%減であった。7月の開催日数が少なかった関係で、3か月前とは比較できないものの、新スタンドオープンの効果は予想していた程出していない。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・客単価は好調であるが、来客数が伸びない状況が続いている。
	悪くなっている	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭売上、外商売上とも前年を下回っている。特に外商は、大口取引先の落ち込みが大きい。
		スーパー（店長）	単価の動き	・購入点数は前年と変わらないが、客単価が下落しており、売上が減少している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー補助金の終了に伴って、新車受注が減少している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー補助金終了の影響を受け、販売不振に陥っている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・エコカー補助金終了後、来店客数・販売台数とも激減し、10月の受注高は前年比42%まで激減している。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
(四国)	やや良くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新規の販路開拓が成功した当社の売上は増加しているが、小売店は全体的には大変厳しい様子である。
		木材木製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・季節要因で若干良くなっているが、例年と比較すると悪い。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年は10月に良くなるのだが、今年はノベルティ関係が悪く、全体の売上も思うほど増加していない。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大型太陽光発電設備の受注が増えている。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・公共事業の受注件数が増加している。
	変わらない	農林水産業（総務担当）	受注価格や販売単価の動き	・季節的に小売店の催事が少なく、商品の動きが悪い。
		一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・復興関連需要により、順調に推移している。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ようやくまとまった金額の工事が1つ受注できたが、まだまだ足りないと感じている。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・現実の動向は悪いが、政局変化への期待感から変わらないと判断したい。
		通信業（部長）	受注量や販売量の動き	・冬商戦と新商品の発売時期を控え、様子見している感はあるが、前年と比べても、あまり変化はない。
不動産業（経営者）		取引先の様子	・不動産業はかなり悪い状況が続いている。ただ、消費税率引上げを見込み、住宅展示場などは来場者が増えている。成約に至るケースは少ないものの、動きは出てきている。	
広告代理店（経営者）		受注量や販売量の動き	・状況は安定してきている。資材価格が安定しており、特に用紙は値下がりが見込まれる。	
やや悪くなっている	電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・北米、欧州向けだけでなく、韓国、台湾、中東向けの受注も減少している。更に価格競争が激しくなることも予想される。	
	輸送業（営業）	取引先の様子	・10月の取扱量は前年同期比で、約20%落ち込んでいる。例年であれば、年末に向けて原材料の仕入れが活発化するが、今年は大幅な減少に転じている。	

	金融業（融資担当）	受注量や販売量の動き	・官製談合による指名停止処分が公表された影響により、消費マインドが冷え込んでいる。取引先から売上が激減したと聞いた。
	公認会計士	取引先の様子	・関与先の試算表等を見ると、売上、利益ともに前年より減少している企業がかなり増えている。
	悪くなっている	-	-
雇用 関連	良くなっている	-	-
(四国)	やや良くなっている	職業安定所（職員）	それ以外 ・9月の月間有効求人倍率は0.74倍で、3か月前より0.05ポイント上回っている。
	変わらない	人材派遣会社（営業）	雇用形態の様子 ・10月の労働者派遣法改正による、日雇い派遣の原則禁止の影響から、緊急時の人材確保が出来ない状況にある。派遣会社も派遣社員にかかわる需給調整が出来ていない。
		求人情報誌（営業）	求職者数の動き ・例年と比べて求職者数が減少している。要因としては、企業の離職者減少が挙げられる。離職しないのは、次の就職先が見つかりにくいからと思われる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き ・新規求人のうち、正社員の割合が、全国平均より8ポイント低く、求職者が求める安定雇用とのミスマッチが進んでいる。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き ・一般企業の求人数の伸びが、9月から10月にかけて緩やかになってきている。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（営業担当）	雇用形態の様子 ・求人数、求職者数ともに減っている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子 ・金融や公共関連の広告出稿が低調である。エコカー補助金が終了した自動車ディーラーの落ち込みが予想より少なかったものの、今後は不透明である。建物の新築や新規出店情報も乏しい。
		職業安定所（職員）	求人数の動き ・新規求人数が前年同月比11%減となり、4か月連続で減少している。
		民間職業紹介機関（所長）	求職者数の動き ・この数か月の求職登録者の動向をみると、会社の将来が不安で登録する人が増えている。早期退職や人員削減等が実施されるのではないかという不安感から、転職を考える人が増えている。
	悪くなっている	-	-